集会は〝ブレズレン〟か？

台　豊

伝道出版社

集会は〝ブレズレン〟か？

この学びは、さる二〇〇四年一一月に金山キリスト集会（名古屋）の特別学び会で語ったものです。集会についての誤った見解が一部に流布されている現在、各地において主の御名の下に集まっておられる兄弟姉妹のために、この学びが少しでも参考となり、助けとなるなら幸いです。

集会は〝ブレズレン〟か？

第一章　集会（地域集会）とは何か？……6
地域集会は神殿（神の宮）である
「御名を住まわせられた場所」に集い、礼拝する
今日の、いわゆる〝教会〟が抱える二つの問題
御名に関わる問題

第二章　集会（地域集会）とは、何ではないか？……23
ブレズレン（プリマス・ブレズレン）とは何か
集会は〝ブレズレン〟か？
誤り（その一）　歴史的事実に反する
誤り（その二）　信仰者としての姿勢の問題
ただ、キリスト・イエスだけが尊い

集会を〝ブレズレン〟と呼ぶことの害
みことばの示す真理の放棄
第三章　集会（地域集会）に集う者が心すべきこと……48
愛を欠いたまま集会の真理を語る危険
「愛をもって真理を語る」
人々とどう接するか
力はわずかでも、「主のみことば」と「主の御名」を大切にする
付録（翻訳）
「ブレズレン」という誤った呼び名について（W・E・バイン）……60

今日は、少しハードなテーマについて、すなわち『集会とは何か』ということについてお話をするように導かれました。というのも、現在、各地の集会の間で一つの問題が起こりつつあり、その問題を正面から取り扱うことが避けられなくなってきているからです。そういうわけで、今日は楽しい中に少しばかりの緊張をもって、しかしなるべく楽しく、神様のみことばを分かち合いたいと思います。

三つのことを覚えます。

① 第一に、具体的な問題を取り扱う前に、まず基本的なこと、すなわち『集会（地域集会）とは何か』ということについてお話します。

② 第二に、その応用問題として『集会とは何ではないか』、集会とはこういうものではない、より具体的には、集会は〝ブレズレン〟または〝プリマス・ブレズレン〟という教派やグループではない、ということについてお話します。この二番目の点について、もっとも時間をかけてお話します。

③ その上で、最後に、『集会に関する真理』を学ぶ、語る、または実際に行う時に私たちが注意すべきこと、すなわち『愛をもって真理を語る』ということについて再確認し、

学びを閉じたいと思います。

第一章　集会（地域集会）とは何か？

まず最初に、基本的な問題として、『集会（地域集会）とは何か』ということについて覚えましょう。

地域集会は神殿（神の宮）である

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。**あなたがたがその神殿です**。（Ⅰコリント三・一六、一七）

コリント第一は、よく「教会憲章（憲法）」であると言われます。その前のローマ書には、

福音に関する真理の基本的な事項が順序立てて書いてあります。続いて、コリント第一では、地域集会に関する真理が、かなり具体的な部分まで記されています。この二つの書簡は、私たちが、「神の福音」（ローマ一・一）と「神の集会」（Ｉコリント一・二）を理解するために精通すべき、もっとも重要な文書です。

さて、この聖句は、地域集会が本質的にどのようなものであるかを説明しています。ここで書かれていることは、キリスト信者が集められた地域集会というものは、一つの神殿である、神が住まわれ、その神を礼拝する神殿である、ということです。ですから、「地域集会とは何か、その本質は何か、大切にしなければならないことは何か」についてよく学ぼうとする時には、旧約聖書の神殿（宮）に関する記事が、大変重要な手がかりになります。

ということで、旧約聖書をさかのぼっていきますが、まずエズラ記の一章を見てみましょう。

ペルシヤの王クロスの第一年に、エレミヤにより告げられた主のことばを実現するため

に、主はペルシヤの王クロスの霊を奮い立たせたので、王は王国中におふれを出し、文書にして言った。「ペルシヤの王クロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私に賜わった。この方はユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てることを私にゆだねられた。あなたがた、すべて主の民に属する者はだれでも、その神がその者とともにおられるように。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。残る者はみな、その者を援助するようにせよ。どこに寄留しているにしても、その所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んでささげるささげ物のほか、銀、金、財貨、家畜をもって援助せよ。』」

そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たち、すなわち、神にその霊を奮い立たされた者はみな、エルサレムにある主の宮を建てるために上って行こうと立ち上がった。（一～五節）

エズラ記とネヘミヤ記は、神の神殿についてよく書かれている文書です。エズラ記は、バビロンによって破壊しつくされた神殿の再建を扱っています。続くネヘミヤ記では、さ

らに神殿を囲む城壁の再建や、神殿の中での礼拝を整えることについて書かれています。

このエズラ記一章では、エホバなる神様が、クロス王を動かして神殿の再建を命じられました。そして、今お読みしたとおり、神の宮とはすなわち**「エルサレムにある神の宮」**、**「エルサレムにある主の宮」**でした。これ以降、たとえば、二章六八節、三章八節、四章二四節など、続く章節においてずーっと**「エルサレムにある神の宮」**、**「エルサレムにある主の宮」**という言葉が何度も何度も出てきます。

「神の宮」というものは、常にエルサレムという街と結びつけられていて、神の民はこの「エルサレムにある神の宮」を建てるために立ち上がりました。なぜでしょうか？　その答はエズラ記の六章に書いてあります。

エルサレムに御名を住まわせられた神は、この命令をあえて犯しエルサレムにあるこの神の宮を破壊しようとして手を出す王や民をみな、くつがえされますように。（一二節）

その理由は、神がその御名を（すなわち、ご自身を）エルサレムに置かれたから、住ま